

## 全自動貸金庫規定

### 1. (格納品の範囲)

- (1) 貸金庫には、つぎに掲げるものを格納することができます。ただし、格納品の総重量は当行が別に定める重量以下とします。
  - ① 公社債券、株券その他の有価証券
  - ② 預金通帳・証書、契約証書、権利書その他の重要書類
  - ③ 貴金属、宝石その他の貴重品  
ただし、壊れやすいものは格納できません。
  - ④ 前各号に掲げるものに準ずると認められるもの
- (2) 当行は前項各号に掲げるものについても、相当の理由があるときは格納をおことわりすることがあります。

### 2. (契約期間等)

この契約の当初契約期間は、契約日から最初に到来する9月末日までとし、契約期間満了日までに借主または当行から解約の申出をしないかぎり、この契約は期間満了日の翌日から1年間継続されるものとします。継続後も同様とします。

### 3. (使用料)

- (1) 貸金庫の使用料は、当行が別に定める料金により6か月分または1か月分を前払いするものとし（ただし、年間を通じて稼働する全自動貸金庫をご利用になる場合は6か月分を前払いするものとします）、6か月払分は毎年4月1日（休日の場合は翌営業日）と10月1日（休日の場合は翌営業日）に、1か月払分は毎月1日（休日の場合は翌営業日）に、借主が指定した預金口座から、普通預金・総合口座通帳、同払戻請求書または小切手によらず払戻しのうえ使用料に充当します。なお、当初契約期間の使用料は、契約時に、契約日の属する月については日割計算により、翌月以降については月割計算により支払ってください。ただし、契約日が月の第1日の場合はその月から月割計算とします。
- (2) 使用料は諸般の情勢により変更することがあります。変更後の使用料は、変更日以降最初に継続される契約期間から適用します。
- (3) 契約期間中に解約があった場合は、解約日の翌日から期間満了日までの使用料を、解約日の属する月については日割計算により、翌月以降については月割計算により返戻します。

### 4. (鍵等の保管)

- (1) 貸金庫に付属する鍵正副2個のうち、正鍵は借主が保管し、副鍵は予備鍵として当行所定の袋に入れて借主および当行行員が封印のうえ、当行が保管します。
- (2) 借主にセーフティボックスカード（以下「ボックスカード」という）を発行しますので、借主が保管してください。

### 5. (暗証の登録)

借主が貸金庫の開庫にあたって使用する暗証を登録します。この場合、借主は当行所定の暗証届を当行に提出してください。

## 6. (開閉者の確認)

ボックスカード、暗証、正鍵により当行所定の手続きにより貸金庫を開閉したものを借主(正当な契約者)とみなします。なおこの場合、当行は開閉者の性別、年齢等の確認はしません。

## 7. (貸金庫の開閉等)

- (1) 貸金庫の開閉は、借主が正鍵を使用して行ってください。
- (2) 貸金庫の開庫にあたっては、借主がボックスカードを当行所定のカード読取機に挿入し、届け出の暗証をボタンにより操作してください。また格納品の出し入れは、当行所定の場所で行ってください。
- (3) 閉庫後は、貸金庫の施錠を確認のうえ、貸金庫取出口扉を閉め、貸金庫を格納してください。もし、それがなされなかったことにより生じた損害については、当行は責任を負いません。
- (4) 年間を通じて稼働する全自動貸金庫については、格納品の出し入れを行うための当行所定の場所(ブース)にカメラを設置し、借主の安全のために当行が必要と認める範囲において、借主の様子を確認ないし撮影することができるものとします。

## 8. (届出事項の変更等)

- (1) 印章を失ったとき、または印章、名称、代表者、住所、暗証その他の届出事項に変更があったときは、直ちに当行所定の方法により当行に届け出てください。この届け出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。ボックスカード、正鍵を失ったとき、もしくはき損したときも同様とします。
- (2) 届け出のあった名称、住所にあてて当行が通知または送付書類を発送した場合には、延着し、または到達しなかったときでも通常到達すべき時に到達したものとみなします。

## 9. (ボックスカード、印章、鍵の喪失時等の取り扱い)

- (1) ボックスカード、印章もしくは正鍵を失った場合の貸金庫の開閉は、当行所定の手続きをした後に行ってください。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (2) ボックスカードを失い、ボックスカードを再発行する場合は当行所定の手数料を支払ってください。
- (3) 正鍵を失った場合またはき損した場合は、錠前等の取り替えに要する費用を支払ってください。なお、当行が貸金庫の変更を求めたときは、直ちにこれに応じてください。

## 10. (暗証照合、印鑑照合等)

- (1) 貸金庫の開庫にあたり、カード読取機操作の際使用されたボックスカードを確認のうえ記録(ボックスカードを自動的に転写する方式)し、同時にボタン操作により入力された暗証と届け出の暗証との一致が確認され、正鍵により開庫をした場合は借主自身が操作したものとみなし、ボックスカードまたは正鍵あるいは暗証につき偽造・変造・盗用その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。

- (2) 貸金庫開庫届、諸届その他の貸金庫取引に関する書類に使用された印影または暗証を届け出の印鑑または暗証と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて開庫その他の取り扱いをした場合は、それらの書類につき偽造・変造、その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。
- (3) 貸金庫の開閉に使用されるボックスカードならびに鍵について当行は確認する義務を負いません。

#### 11. (損害の負担等)

- (1) 災害、事変その他の不可抗力の事由、または他の借主の当行が別に定める総重量を超えた格納、全自動貸金庫規定に違反した使用もしくは通常でない使用その他当行の責めによらない事由により、貸金庫設備の故障等が発生した場合には、貸金庫の開庫に応じられないことがあります。このために生じた損害については当行は責任を負いません。
- (2) 前項の事由による格納品の紛失、滅失、き損、変質等の損害についても当行は責任を負いません。
- (3) 借主の責めに帰すべき事由または格納品の変質等により、当行または第三者が損害を受けたときは、その損害を賠償してください。

#### 12. (反社会的勢力との取引拒絶)

この貸金庫は、第13条第3項各号のいずれにも該当しない場合に使用することができ、第13条第3項各号の一にでも該当する場合には、当行はこの貸金庫の使用申込をおことわりするものとします。

#### 13. (解約等)

- (1) この契約は、借主の申出によりいつでも解約することができます。この場合、ボックスカード、正鍵および届け出の印章を持参し、当行所定の手続きをしたうえ貸金庫を直ちに明け渡してください。なお、ボックスカード、正鍵または届け出の印章を失った場合に解約するときは、このほか第9条に準じて取扱います。
- (2) つぎの各号の一にでも該当する場合には、当行はいつでもこの契約を解約することができるものとします。この場合、当行から解約の通知があったときは、直ちに前項と同様の手続きをしたうえ貸金庫を明け渡してください。第2条により契約期間が満了し、契約が更新されないときも同様とします。
  - ① 借主が使用料を支払わないとき
  - ② 借主について相続の開始があったとき
  - ③ 借主の責めに帰すべき事由または格納品の変質等により、当行もしくは第三者に損害を与えまたはそのおそれがあると認められる相当の事由が生じたとき
  - ④ 店舗の改築、閉鎖その他相当の事由があるとき
  - ⑤ 借主がこの規定に違反したとき

- (3) 前項のほか、つぎの各号の一にでも該当し、借主との取引を継続することが不適切である場合には、当行はこの貸金庫の利用を停止し、または借主に通知することによりこの契約を解約することができるものとします。この場合、当行から解約の通知があったときは、直ちに第1項と同様の手続きをしたうえ貸金庫を明け渡してください。なお、この解約によって生じた損害については、当行は責任を負いません。また、この解約により当行に損害が生じたときは、その損害額を支払ってください。
- ① 借主（法人の場合には、法人の役員等を含む。以下、この項において同じ）が貸金庫使用申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合
  - ② 借主が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という）に該当し、またはつぎのいずれかに該当することが判明した場合
    - A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
    - B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
    - C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
    - D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
    - E. 借主または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
  - ③ 借主が、自らまたは第三者を利用してつぎのいずれか一にでも該当する行為をした場合
    - A. 暴力的な要求行為
    - B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
    - C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
    - D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当行の信用を毀損し、または当行の業務を妨害する行為
    - E. その他AからDに準ずる行為
- (4) 前3項の明け渡しが遅延したときは、遅延損害金として解約日または契約期間の満了日の属する月の翌月から明け渡しの日の属する月までの使用料相当額を月割計算により支払ってください。この場合、第3条第3項にもとづく返戻金は、遅延損害金に充当します。不足額が生じたときは直ちに支払ってください。なお、当行はこの不足額を明け渡しの日に第3条第1項の方法に準じて自動引き落としすることができるものとします。
- (5) 第1項から第3項の明け渡し3か月以上遅延したときは、当行は副鍵を使用して貸金庫を開庫のうえ、格納品を別途管理し、もしくは一般に適当と認められる方法、時期、価格等により処分し、または処分が困難な場合には廃棄することができるものとします。なお、当行は貸金庫の開庫に際して公証人等に立ち会いを求めることができるものとします。こ

れらに要する費用は借主の負担とします。

- (6) 使用料、遅延損害金その他借主が負担すべき費用が支払われないときは、前項の処分代金をこれに充当することができるものとします。この場合、不足額が生じたときは、当行からの請求がありしだい支払ってください。

#### 14. (貸金庫の修繕、移転等)

貸金庫の修繕または移転、その他やむを得ない事情により、当行が格納品の一時引き取りまたは貸金庫の変更を求めたときは、直ちにこれに応じてください。

#### 15. (緊急措置)

法令の定めるところにより貸金庫の開庫を求められたとき、または店舗の火災、格納品の異変等緊急を要するときは、当行は副鍵を使用して貸金庫を開庫し、臨機の処置をすることができるものとします。

このために生じた損害については、当行は責任を負いません。

#### 16. (譲渡、転貸等の禁止)

貸金庫の使用権は譲渡、転貸または質入れすることはできません。

#### 17. (保証人)

保証人は、この契約から生ずるすべての債務について借主と連帯して履行の責めに任ずるものとします。

この契約が継続された場合も同様とします。

#### 18. (規定の変更等)

- (1) 当行は、法令の定めにしたがい、お客さまの利益のために必要と認められるとき、または、その他相当の事由がある場合で、お客さまの契約目的に反せず、かつ変更の必要性、変更後の内容の相当性、その他変更にかかる事情に照らして、合理的な内容であるときに、本規定を変更することができます。
- (2) 前項による本規定の変更は、変更後の規定の内容を当行ホームページへの公表その他適切な方法により公表し、公表の際に定める効力発生時期の到来により効力を生じるものとします。

以 上  
(2025年4月7日改正)